



2月10日は南岸を低気圧が通過し、1日中雨が降り中止しました。この記録は8日(火)に主に鳥見を主に歩いた時のものです。矢作川導水路の吐出口の水が止まっていました。下流の愛知用水で工事をしているところがあるためでしょうか？この日は重機の音も聞こえず静かな中を歩きました。



トウカイコモウセンゴケ

多年生の草で、湿地のやや乾いた場所で生育する食虫植物で、新葉が縮こまっているように見えます。



クワコ繭

絹糸を採るカイコガは、今から5千年以上前に中国で同じクワコを家畜化し、その後品種改良を重ねて作られたものです。カイコの幼虫は歯がなくなってもじっとしており、成虫は羽があっても飛ばません。クワコは葉を求めて移動し、繭を作る時にはカムフラージュのために葉を巻きつけ、羽化した成虫はよく飛びます。...

...参考

←クワコ幼虫

成虫は6月頃から11月頃まで見られます。卵で越冬

します。川岸などにクワが増えているので、繭がよく見つかるようになったように思います。



ソウシチョウ

スズメくらい大きさで、中国南部から東南アジアにかけて分布し、江戸時代から輸入されて、野生化してい

ます。この写真を撮った時は、メダケの裾の辺りに群で移動してきました。藪でよく見かけるウグイスと同じような環境を好みます。そのためウグイスなど在来種への影響が心配されており、特定外来生物に指定されています。



霜 夜間の冷え込みで、
 空中の水分が氷ったものです。落ち葉の縁
 で氷の結晶が伸びるようすが見えます。



ツグミ

今冬はツグミ
 が見られるよう
 になるのが例年
 より遅くなりま
 したが地面に降

りて餌をついばむ姿が見られるようになって
 います。また、ツグミと同じ
 仲間のシロハラ(右)はビ
 チビチというような音を
 立てるので姿を見なくて
 も存在が分かります。



カンムリカイツブリ

この日は、20羽ほどしか見
 られませんでした。頬が濃
 く変わっている雄がいました。
 これは夏羽に変わりつつある
 ことを示し、この先頭部に飾
 り羽が生じてきます。



スギ雄花

スギの枝先にできた雄花が
 膨らんで見えます。今年の
 スギ花粉の飛び始めの予想
 日は2月19日頃です。



ミコアイサ

真っ白の体に目の辺りの黒
 い模様が映え、パンダガモと
 言われる由縁です。下は雌で、
 あたまが茶
 色いのが特
 徴です。



コゲラ 枝が落ちた穴に、
 何度も口ばしを入れて探して
 いました。じっと見ていまし
 ましたが虫を捕まえたのかどう
 かは分かりませんでした。



ホオジロめす

植物 スイセン、チガヤ、冬芽(ソメ
 イヨシノ、サルスベリ、ヤマモモ、
 アラカシ、ニセアカシア、コナラ、
 ノイバラ、アカメガシワ、スギ)、
 カラスウリ実、ログネモチ赤い実、
昆虫 みの虫の一種、アリ地獄冬眠
 中(ウスバカゲロウ幼虫)、
鳥・その他 ジョウビタキ雌雄、メジロ群、シジュウカラ、コゲラ、カワ
 ラヒワ、ホオジロ雌雄、アオジ、ツグミ、シロハラ、ソウシチョウ、ハシ
 ボソガラス、カワウ、カルガモ、マガモ、キンクロハジロ、カンムリカイ
 ツブリ、オオバン、(羊歯)ノキシノブの一種、

次回2月10日(木)午前9時30分水資源機構P前、参加費100円

・コロナ非常事態下と雨天は中止